

## 国分寺市図書館運営協議会第4期第2回定例会

日時：平成25年2月14日（木） 午前9時30分～11時30分

場所：本多公民館 講座室

欠席：0人 傍聴：0人

午前9時から9時30分まで本多図書館見学

会長：2回目の定例会を始める。今回初めての、関さんから自己紹介を。

委員：東京経済大学の図書館の関です。前期に引き続きよろしくお願ひしたい。

会長：本日午後は見学会を予定しているので、11時30分を目途に終わる。報告事項を。

事務局：配布資料確認。平成24年1年間の議会の報告をする。3月議会は平成24年予算の審議で、図書費の削減に対し図書館はどう考えているか質問があり、市全体の予算削減の中での図書費の減額であるが、今後復元に努めると答弁した。市民からの寄贈を募ったらどうかという意見を頂戴し、リクエストの多い本のリストを館内掲示と図書館ホームページに載せ、6月から寄贈の募集をしている。リストは1カ月に1回更新している。平成24年度はICタグ予算の確保ができなかった。遅れのないように進めてほしいという意見があった。6月議会では図書費とICタグのことで、今年度の状況の質問。図書費については、本の選書を工夫し、なるべくダブらないよう購入する工夫を以前からしている。リクエストの多い本は、以前は各館4冊、市内最高20冊まで購入していたが、2冊ずつにし、市内最大10冊で対応していると答えた。ICタグについては、緊急雇用の補助金で少しでも対応して行くことで進めていると報告している。9月議会は、Web図書館、電子書籍、デジタル資料について国の資料が冊子で出なくなってネット上の公開のみになっているが、そういう資料の収集をどうしているのか。第3期図書館運営協議会の答申の「IT技術の進展をふまえた国分寺市立図書館サービスのあり方について」に盛り込んでいきますと答えた。香川県坂出市で路線バスに本を乗せたバス文庫で、子どもたちに本を提供するサービスがあり、ぶんバスにリサイクル本を積めないかかという質問があった。坂出市は小学生がバス通学しており、国分寺市とは規模が違う。安全面でも課題がある。国分寺市ではそれぞれの図書館のリサイクルコーナーから本を持ち帰っていただいている状況を答えた。アウトソーシングの研究を進めているかという質問には、他市の状況を見ながら、国分寺市に合った図書館の運営方法を検討し行革推進本部に報告していると答えた。財政が厳しい折、国分寺市だけではなく国分寺市を取り巻く近隣自治体との広域連携を考えていいのではないかという質問があった。現在府中市、国立市と相互利用を行っているがそれ以外の市とはしていない。図書館だけでなく全体の広域連携について進めていくと政策部で答えている。図書費についてはどういう課題が出てきているか。さまざまな工夫をしているが図書費

確保に努力している。決算特別委員会では学校図書館の地域開放がどう進んでいるか。第4次長期総合計画で、「学校図書館の地域開放」が掲げられており、子ども読書活動推進計画にも盛り込まれている。本来の学校図書館の役割をきちんと把握した上で開放していくことが大事であり、学校指導課と協議を進めているが、まだ具体的に示せるような段階ではないと答えている。ICタグについては決算特別委員会でもちゃんと進めていけるのだろうかと言われていた。12月議会では、インターネット環境の整備、無線LAN設置を考えたかどうかという質問。館内でインターネットに接続して情報収集ができるように、図書館でも市内各館で端末は置いているが、自分のパソコンやタブレットを使ってできればいいのではということ。研究させていただくと答えている。ひかりプラザの向かいの鉄道総研が新幹線発祥の地であるため、ひかりプラザ横に新幹線の一両分を設置している。小さい子がよく見学に来ているので、子ども向けの本を置いて休憩しながら本を見られるようにしたらどうかという意見があった。社会教育スポーツ振興課と協議し、新幹線の中に本棚を作り、児童書も少し並べ、2月から「しんかんせん文庫」としてスタートさせたい。都立図書館が西国分寺駅南側に移転してくるが、移転地周辺は市内の図書館から遠いエリアであるため、市立図書館のリクエスト受取窓口を多摩図書館の中に作ったらどうかという要望を出していた。その後の進捗状況はどうかという質問。教育長・教育次長と都庁にお願いをしているが、理解はするが国分寺市のみのサービスは難しいと言われていた経過を報告している。同じ議員から補正予算特別委員会で、都立図書館が難しいようであるなら、西国分寺駅南側の公共施設を利用して本の受け渡しができる工夫をしてほしいというご意見を頂き、研究させていただきたいと回答している。毎年図書館についての質問はさほど多くはないが、24年度は図書費削減やICタグの予算が確保できないなどに関連し質問が多かった。

会長：24年の議会での質問についての報告に質問は、図書館としては珍しく質問が多かったということである。なければ2番目に本日視察に行く武蔵野プレイスについて。

事務局：本日午後視察していただく武蔵野プレイスは、いろいろな施設が入っている複合施設で、互いの施設を関連付けながら運営されている。入口を入ると図書館、喫茶コーナー、地下のプレイルーム（冒険できる所）や、学習できる勉強部屋がある。図書館部分はメインが2階だが、地下にも本のスペースがある。1階は雑誌新聞が置いてあり、いろいろな施設と連動しながら本を探したり読んだりする施設である。9000㎡位ある大きい図書館で、壁を丸く使うなど、全体的に柔らかく明るい図書館である。武蔵野市は大きな中央図書館が三鷹駅から歩いて15分ぐらいのところであり、分館が2館。西部図書館を廃館し、代わりに武蔵境駅前に作った。武蔵野市の財団が管理運営している。図書館は市の職員が出向という形で運営に関わり、武蔵野市の図書館網の中に繰り込まれている。本日は財団の職員が施設の案内と説明をする。2時間を予定しているが、その際気づいたことなどを質問してほしい。2時から見学なので、1時20分に国分寺駅改札口前に集合していただきたい。

会長：国分寺駅改札口に集合。委員は2人参加できない。

事務局：武蔵野市の財団から、視察風景の写真を撮りたいと連絡が入っている。了承いただきたい。

会長：武蔵野プレイスについて事前に事務局に質問があれば。なければ次に進む。

事務局：本日配布した資料「ご意見箱への意見」は、各館のご意見箱とメールでいただいた意見である。各館にコーナーがあり、意見と回答を作成し一緒に貼っている。メールの意見は回答を本人にメールで送っているため、公にはなっていない。蔵書点検のための休館を年一回設け、館が重ならないようにずらしながら行っている。行方不明になった資料をチェックするために、年1回は必要である。恋ヶ窪図書館は老朽化した書架の取替えのため休館する。開館以来使用しているスチールの棚で、40年たっているため修理不可能であり、棚がゆがんで危険なので取り換える。アウトソーシングについて平成23年12月と平成24年8月に今後の図書館の運営のあり方について提出したが、行革推進本部から多様な運営方法について検討をするように言われている。国分寺市の図書館は地区館が5館あり、他市のように大きい図書館が業務を集中して担っているのとは違い、5館で分担している。職員が行わなければいけない仕事とは何かをまとめていかなければならない。直営方式での運営を示したが、再検討を求められている。新年度早々に次を示していかなければならない。各図書館の行事等について報告。

委員：ご意見箱の資料に書かれていない館にはご意見箱はないのか。

事務局：全館にご意見箱は置いてあるが、この期間は意見がなかった。

委員：最初のメールの意見のブックポストの件は、タイムラグの問題だけなのでは。

事務局：本が返却されていたのに、手続きにミスがあったという例である。

会長：本多図書館の一番下の意見で予約の期限が今のシステムではわからないのか。

事務局：連絡をしてから10日間取り置く。ホームページに期限日を表示するには、手入力になる。16万件のリクエストすべて入れるのは難しい。次期システムで機械的処理ができるように構築したい。

委員：リクエスト冊数の議論がご意見箱にあるが、図書館としての考えは出ているのか。

事務局：国分寺市は貸出・リクエストの冊数を12冊にしており、今のところ変更は考えていない。他市の状況などを調査した上で考えたい。近隣市だと10冊ぐらいのところが多い。隣の小金井市は無制限、国立市は貸出期間が3週間で延長は1週間。国分寺市は貸出期間が2週間で延長はさらに2週間。リクエストの多い本は別枠でたくさんリクエストできるようにしてほしいというのは難しい。今のところ2週間の貸出期間についても変更は考えていない。上手に使っていただくようお願いしたい。

委員：意見をいただくのはありがたい。反映するものと反映しないものと分けられると思うが反映する基準は。

事務局：意見反映に予算が必要な場合は、年度内では難しいので、次の年度に向けて整理し検討する。予算が必要でなく、すぐ対応できるものは、館内や館長会などで調整

し対応している。議会の質問も同様で、ひかりプラザの「しんかんせん文庫」はすぐに対応できた。予算が必要だと時間がかかる。いただいた意見には極力お応えしたいと考えているが、真反対の意見が出ることもあり、調整しながら進めている。

委員：意見を整理していくと問題のあぶり出しができ、予算や計画が見えてくるのではないか。意見に答えるだけでなく、総合的に課題のあぶり出しをすると面白い。

委員：リクエスト冊数は12冊だが、みんなはどのくらいの冊数リクエストするのか。12冊借りたら2週間で読むのは大変ではないか。

委員：2週間は短い気がする。リクエストの12冊が予約100件以上の本ばかりで埋まってしまうというのは初めて知った。

事務局：読みたい本にリクエストをかけると、100人以上待っている本もあり、用意できるまで何か月もかかってしまう状態なので、待っている間にも他の本に予約かけて借りるようにできないかという意見である。

委員：リクエストは多い順に買うのか。選書の仕方は。

事務局：国分寺市の図書館として、購入する本の基準を設け、選書会議で決めている。リクエストのある本は、市の蔵書にするかどうか選定し購入している。1冊だけだと100人・200人の予約者がいる場合、提供するまでに何年もかかってしまうので、人気の本は複数冊買って対応している。なるべくお待たせしないように工夫はしているが、半年以上お待たせする場合もある。

委員：定年後の意見、これには何かアイデアがあるのか。

事務局：すぐによいアイデアがあるわけでないが、図書館としては資料を揃えるのが仕事なので、それに適した資料を揃えていく方向で考えている。定年退職の人向けの本が何なのかはわからないが、幅の広い資料を揃えていきたい。

会長：今の時代、図書館が資料だけではなくひとつの交流の場として求められているということだと思う。どういうふうにしていくか、図書館が主体なのか、住民が主体的に交流の場を作っていくように仕向けるのか、いろいろ考え方がある。必要な意見をどのように吸い上げていくか、取り組み方を考えていければ、意見同士が相乗効果で新しいことサービスが生まれてくる可能性がある。そういう意味では面白い。積極的に意見を吸い上げて、どう活用するか考えていければいい。

委員：新聞閲覧室は、定年退職者が多いので、その場を活用のひとつとしてもいい。

委員：時間のある人が多い。

委員：ゆったりとしたものが感じられる。

委員：図書館業務だけではなく考えられる。

会長：資料2-1④「アウトソーシング実施計画策定に向けた市立図書館の図書館運営に関する実施方針」が作成されたのはいつか。

事務局：平成24年8月の教育委員会で承認していただいたものである。

会長：この件は25年度の定例会でも議論があると思うので、その時説明していただく。読んでおくということでもよろしく。各館の行事事業予定はできれば一覧表にしていた

だくとありがたい。委員が行ける時に顔を出していけることにもなる。次回の定例会までに設定されていれば皆さんに提供いただけるとありがたい。

事務局：新年度になって4月に子ども読書の講演会がある。まだ具体的ではないが決まり次第連絡する。

会長：報告事項は終わり、次に協議事項。子ども読書活動推進計画の案について説明を。

事務局：現計画は、平成20年度から24年度の5ヵ年計画で、今年度が最終年ということで実施している。次の第二次計画の策定ため、平成24年5月から子どもの関連施設等にアンケートや聞き取り調査を行った。第三期の委員の方の意見を頂きながら、第二次の計画案を作り、パブリック・コメントを行った。パブリック・コメントは平成24年12月1日から1月8日まで意見募集期間であった。提出者4名、29件ご意見を頂き、計画修正を5件行い、公表していく。計画案全体への意見から、順を追って並べている。

会長：第二次計画案の修正があった所の説明をしていただいた。ご意見は。

委員：計画は作るのは大変なこと。なぜ子ども読書計画を図書館がつくるのか。子どもは広範囲で、図書館だけでなく非常に横断的な計画になるが、図書館が担うと学校との連携はなかなかやりにくい部分がある。ボランティアを含めて現実的に苦労があるのではと思う。国の計画が13年にできて20年に今の計画ができて、状況が変わっていくのではないか。学校のシステム構築はどうか。

事務局：子ども読書の法律ができ、そのあと子ども読書に関する計画を各々の自治体でつくる段階で、本が一番あるからということで図書館になった。子どもの読書環境を考えると、保育園、幼稚園、学童保育、福祉関係など、子どもを取り巻く環境はすべて子どもの読書に関わる。調整はあまりなかったが、図書館が中心になって作っていくことになった。現在の計画は、検討委員会を設けて検討していただいた。今回の第二次計画を策定するにあたっては、子どもの読書計画が5年で変わってしまうような内容の計画ではないので、現計画を踏襲した形で作っている。情報収集をして漏れのないようにしてきたが、学校は授業を中心に学校生活があるため、入っていくのが難しいということが一方ではある。平成22年度には全校の学校図書館に司書が配置された。それまで学校図書館は常時開館していたわけではなかったが、全校に1人ずつ配置されることになり、月曜日から金曜日まで図書館が開くことになった。学校図書館とはお互いに連携しながら進めており、システムの連携もしている。学校図書館で検索すると、自校のデータ、全校のデータ、学校と図書館のデータと分けて検索できる。希望の本を選んで送信すると本多図書館にデータが送られてくるので、各図書館に本多からFAXで送っている。本が学校図書館に届いた時、公共図書館の書誌データを使って仮登録し利用するという運用をしている。こなれたシステムではないため、次期システムでどうするかが課題になっている。国分寺市では、学校図書館と公共図書館が同じメーカーのシステムを導入しているがなかなか難しい。

事務局：昨年、第三次計画を策定するためにどのような課題があるのか、国からアンケートが来ていた。

会長：学校との連携はかなり難しい部分がある。その中で大きいことは物流をどうするかと書誌データ。第二次計画の策定するとき、関連部署の集まりはなかったのか。

事務局：現計画の時は検討委員会を設置したが、第二次計画の検討はプロジェクトは置かず、アンケートや聞き取り調査をした。5年前と状況がそれほど変わっていないところが結構あり。改めて検討委員会を設けご意見をうかがうのは難しいので、聞き取りをして素案を作成した。

委員：学校と公共図書館との物流（運搬）はまた検討ということか。なかなか進まないのはどこがネックなのか。

事務局：公共図書館間の物流はあるが、学校を組み込むにはどうするか。学校間の物流は学校指導課で検討していたが予算の確保が難しい。公共図書館間は毎日大量の物流があるが、学校はどのくらいの頻度で物流があるのか、量の把握がなかなかできない。次期システムの検討時に、システムだけでなく物流も含めた検討を、コンサルを交えて行うことにしている。もう少しお待ちいただければと思う。

委員：指導要領が変わり、学校図書館の利用について取り上げられている。読書について、子どもたちにスポットが当てられているので、ぜひ進めていただきたい。

会長：学校図書館に人が配置され動きが出てくると、これからいろんな意見が出てくるのではないか。

事務局：書誌データについては、公共図書館は大阪屋マークを使用しており、学校はTRCマークを使っている。マークの種類が違っているため、公共図書館と学校図書館のデータをどのように持つのがいいのか、次期システムで考えていくことになる。

委員：学校図書館の活用は、学校も司書も模索しているところだと思う。うまくいけば学校図書館が授業に使い幅広く活用できる。学校側も一生懸命だと思うので、ぜひ市の図書館も支援する形で進めてほしい。そのうち積極的に活動できるようになる。

事務局：学校図書館を支援していく方法はいろいろ考えられる。学校図書館支援センターなどがある市もある。国分寺市は、教育委員会としては、学校図書館の支援は公共図書館をと考えている。学校との連絡協議会があるので、協議しながら進めていければいいと思う。

事務局：平成22年から、全校の小中学校に全日司書が配置されたので、他の市に比べると司書の配置は早かった。今では、調べ学習について先生が司書に相談し一緒に行っているようだ。公共図書館はそれにプラスした支援を考えている。

会長：公共図書館は以前から学校支援の考え方を持っていたが、学校サイドから公共図書館にラブコールをなかなか送ってこないという状況だった。人が配置されたことで需要が生まれるということもあるので、いい機会だと思う。公共図書館がきちんと応えていければいい。学校支援も国の計画としてやらざるを得ないという中で、予算獲得を考えていくことが必要。では読書活動推進計画についてはよろしいか。

事務局：第二次計画案は、2月か3月の教育委員会に諮り、審議して策定に至る。今年度中の策定を予定している。

会長：できれば関係課にきちんと周知させることが重要。図書館の独り相撲に終わらせないで全庁的にこの問題を考えていくのだということを図書館が発信してほしい。

委員：ぜひ修正があったところは進めてほしい。

会長：次に本多図書館駅前分館について。

事務局：現在北口再開発事務所の1階にある本多図書館駅前分館は、平成25年4月末に北口再開発事務所とともに仮移転を予定。再開発ビルは平成29年に12月オープンの予定。再開発ビルに入る公益施設について市民にアンケートをとっている。3月末までに意見を頂き、4月以降関係部署で取りまとめ、実施設計に反映していく予定。西街区の5階に駅前分館を含んだ公益施設が入る。配置はLホールが550㎡位、市民課サービスコーナーが100㎡位、駅前分館が160㎡位という予定になっている。それ以外の700㎡位は民間活用の可能性も含めて検討していくことになる。新駅前分館については、平成22年から23年度に庁内プロジェクトをつくり、再開発ビルに入る施設について様々な検討を行った。その結果、今の80㎡から160㎡とおおよその大きさが決まってきた。新たな可能性を持った施設にしたいと考えている。現在の駅前分館の機能も併せ持った、新しい駅前分館について検討していただきたい。資料の③はアンケートで寄せられた意見を1ヵ月半分まとめている。利用者懇談会を市内の3か所の図書館で開き、新駅前分館について意見を伺いまとめた。今後、3施設の担当部署が集まり、実施設計に反映させていく。意見を頂きたい。

会長：駅前の一等地に公共施設が入り、その一つが駅前分館だが面積は160㎡。限られたスペースでいかに有効的に活用するか。どのようなサービスを図書館として行うか。具体的に利便性を生かした図書館ということで、1番にあげられた4項目を図書館は重視している。斬新な意見を頂きたい。狭いところなので特別なサービスがいいのか、それともミニ図書館なのか、いろいろな考え方があると思う。

委員：今の北口の分館の利用者と利用率は。

事務局：現在の駅前分館は行政資料を公開し提供するために駅前に設置された図書館。リクエストの受け渡しなどもできるようにして、利便性を生かした市民のサービス窓口ということで、現在年間20,000冊以上リクエストの本を貸出している。市内で一番利用が多いのは本多図書館。駅前図書館は普通の本は全く置いていない。行政資料がほとんどで、唯一多摩地域のガイドブック、それ以外はブックリストに取り上げた絵本を少し置いている。年間21,664冊の貸出しのほとんどがリクエストによるもの。もとまち図書館や並木図書館よりリクエスト件数が多い。取り寄せて借りる。駅も近いのでいろいろなレファレンスがあり、調べて資料を取り寄せて貸出す利用が多い。行政資料の提供については努力している。議事録、委員会の資料、昔の国分寺についての資料への問い合わせが多い。郷土行政資料は基本的には恋ヶ窪図書館が担当し、市の中心部に本を集めて置いてあるが、行政を中心とした資料は駅前

に置き、行政サービスの一環として行っている。

委員：駅のところにできるということは、需要が多くなるので、リクエストも多くなると思う。どういう形でサービスしていくか検討する必要がある。

事務局：建物は上部が 500 世帯くらいの新しい住宅になる。駅に近くて便がいい。住んでいる人も含め、一番近い図書館として本の受け渡し等が今以上に増えていくのではないかと考えている。図書館は集客力が高い施設なので、大きい図書館を駅ビルにつくり、ビルの商業エリアの活性化を図るという考え方もあり、実際そういう自治体も多い。庁内プロジェクトではその方向も検討され、図書館を大きくしていこうという話もあったが、最終的には他の施設を入れることになった。

会長：4階までが商業施設、こういう施設は、図書館ではないが、下が民間商業施設で上が公共施設というのは、たとえば八王子などがある。駅前のビルで公共施設をうまく活用するのは、行政の一つのビジョン。全庁的な中で図書館の求めるスペースをどう確保するか考えていく方がいい。行政の窓口として何ができるか考えていく必要がある。今まで行政資料を置いてきたのであれば、市役所まで行かなくても、行政に関する資料がすべてそこで一通り賄える、新しい行政窓口としての図書館の役割として位置付けるのも一つの方法かと思う。

事務局：市役所の中にオープナーがあり行政資料を扱っている。情報公開も含めて行っているが、提供できる資料は図書館が担えるところではないかと思っている。ホームページを活用し、市のいろいろな部署が持っている行政資料を、図書館を通して利用できるようなことができればと考えている。ふるさと文化財課も現在駅ビルにある展示施設をここに移すことになっている。展示資料とコラボしながら、国分寺市の観光案内を含めた地域資料を提供していけたらと思っている。駅前に分館があるということで、再開発ビルに入れることになったので、図書館としては少しでも役に立つ施設になればと考えている。

副会長：利用者の視点で思うのは、普段図書館を使っていない人がどう使うかということ。

Lホールや市民課サービスコーナーがあると、図書館に関心のない人が違う形でこのフロアに来る機会がある。もっと図書館の5館の紹介をして、国分寺市立図書館の窓口的な情報発信の場になるといい。

委員：リクエストの本を借りている人たちにとって、さっと借りて帰るのに、わざわざ上に行かなければならないのがどうかと思う。Lホールは今駅ビルにあるのになぜわざわざ作るのか。Lホールの大きさを図書館にしたら、マンションの子どもたちも通いやすいのでは。

事務局：現在駅ビルにあるLホールは、スペースを借りている。結構な金額がかかっている。施設をもう少し大きくし、控室をつけてほしいという要望が利用者からあり、市が権利を持っている床ができるということで、施設を移し全体的な経費を削減し、控室なども作り移すことになった。図書館が5階というのは確かにわざわざ上がるということになるが、ビルの場合、階が下になればなるほど金額が高くなるため、



権利として市の持っているスペースも減ってしまう。エレベータやエスカレータを設置することで負担を軽減していくことになる。

委員：国分寺駅と再開発ビルはつながっているのか。

事務局：今改札口のある高さの部分でつながるので、2階部分がつながると思う。

委員：なぜ駅前に図書館を置くのか。武蔵野プレイスのコンセプトのように、新しい行政の窓口というが、160㎡なのはなぜか。本多図書館の近くののに、ターゲットは誰か。駅前というコンセプトは何なのか。新しい行政の窓口という言葉が頭にあると少しは理解できるが、それがなくてどんなふうにとというのは乱暴な言い方ではないか。

館長：国分寺市の図書館は、5館構想で進めてきたので、駅前分館は元々設置するつもりではなかった。市長が、市の行政について情報を提供する場を、駅のそばの入口に作るのが望ましいと考え、駅前分館ができた経過がある。地域の情報をどう伝えていくかというのがメインのコンセプトになる。

会長：本来、行政としての目的とか目標を頭に置いて、それを実現させるためにはどうしたらいいかという具体的なものを考えると考えやすい。イメージとして、行政としてどんなものを考えているのか提起し、それに沿って意見を出すという流れにすると考えやすい。何を目的に行政サービスをしようとしているのか、そのためにはどういう機能が必要なのか。頭の部分がしっかりしていないと考えるにくいので、図書館の方でまず固めていただきたい。どういう目的で、国分寺市の図書館システムの中でどう実現にしていきたいのか、どうしたらいいのか考えていただきたい。

委員：そういう意味では、武蔵野プレイスは今の話のすべてが網羅されている。そういう視点でこれに従ってまとめたらわかりやすい。

会長：そろそろ時間が過ぎようとしているので、協議事項については終わる。

事務局：駅前分館については、3月31日まで意見を募集している。市全体で4月以降取りまとめて、パブリック・コメントにかけ、まとめていく。

会長：今日の委員の意見も参考に、取り入れられるものは取り入れていただきたい。

会長：その他だが、国分寺市の図書館の運営についてということだが、2回目の定例会を開催するにあたり、会長・副会長・館長で話し合い、初めての方も多いので、図書館というものはどういう役割で、本来こういう考え方で図書館サービスをしているのか、事務局から説明していただきたいと思っていたが、次回ということをお願いしたい。皆さんからこういうことをお話いただければというのがあるか。おそらく利用されていると思うが、本来図書館の行政の中で置かれている位置はどうか。本来図書館はどのようなサービスをやらなければいけないのか、やろうとしているのか。国分寺市はそこでどういうことがやれているのか、やれていないのか。できるだけわかりやすく館長からお話いただければ今後の議論が活発になるのではと思う。利用者サイドではなかなかわかりにくい話をしていただき、予算の仕組みとしてこういうことがある。教育委員会の仕組みの中で図書館の位置づけはどうか、ということも含めてお話いただきたいと、私から問題提起したところである。

委員：今回、図書館で障害者の方を少しでも雇用をしていただけないのかということでもいろいろ考えている。今、障害者自立支援法ができ、一般にも雇用推進ということが出てきているが、その中で、地域の中で仕事をしていければいいということがある。今回、書籍の整理とかいろいろあるが、知的障害の方は整理整頓が上手であるということなどもあるので、活用できる所があるのかなと思っている。仕事がいただければいいと思っている。削減の状況ではあると思うがそういうところもよろしくお願ひしたい。

会長：時間も来ているのでこのことは次回。今日の予定は終わり。何かそれ以外にあるか。

事務局：次回は6月13日（木）午前を候補とし、日程調整をする。市内各館特徴があるのと、日ごろ利用されていない図書館をご覧いただけたらと思っている。本多図書館以外の館でスケジュールを組みたいと思っている。

会長：以上で午前の部を終わる。